

緑区下九沢に社屋を構える旭編物は、経編（タテアミ）ニット生地の開発・製造・販売を行っています。取材当日の工場内には名だたる原糸メーカーから取り寄せた原糸が堆く積まれ、それらの原糸を使って生地を高速で編み立てる音が鳴り響いていました。ニット生地の中でも同社が得意とする「経編みトリコット」は、女性用インナーウェアや水着・スイムキャップ、医療用コルセットや包帯など、私たちの生活に欠かせない製品に生まれ変わり、世の中に役立てられています。繊維産業の厳しい国際競争にさらされながら、創業70年以上。衣食住の「衣」の部分で私たちの暮らしを支えてきた老舗企業に迫りました。

## ■繊維産業の発展に貢献

創業は1952年3月。熊坂聡社長  
の祖父の代に橋本駅周辺の「旭地区」  
で出発したことが、社名の由来です。  
1964年から下九沢に移り、現在に至  
ります。

や産業資材など幅広い用途で使われてい  
ます。

ニットの中でも同社が専門とする「経  
編みトリコット」は、女性用インナーウ  
エア、水着・スイムキャップ、医療用コ

## 「伸縮する素材」で 暮らしに寄り添う

創業当時の1950年代は、従来の綿  
糸や毛糸のほか、新素材である合成繊維  
が加わり、日本の繊維産業が基幹産業と  
して成長していった時期と重なります。  
こうした中、同社は合繊テキスタイル  
の編織技術を他社に先駆けて確立し、ス  
パandex（ポリウレタン）糸を編み  
込んだ伸縮性のあるニット生地の開発、  
製造、販売を続けています。

## ■身近な暮らしの立役者

ニット生地は織物生地と違い、1本の  
糸から編目を作りながら「ループ」と呼  
ばれる輪をつなぎ合わせて作られます。  
伸縮性や柔軟性、保温性やドレープ性な  
どに優れているのが特徴です。その特性  
を生かし、衣料全般のほか、インテリア

ルセットや包帯など、馴染みの製品とし  
て手に取られています。

現在、工場には25台の編立機と11台の  
整経機が稼働。平均年齢30代の若い従業  
員たち17人を中心に、「生機」と呼ばれる  
染色加工前の状態の生地を製造していま  
す。年間生産量は約7200反。ランニ  
ング中の基本的な品番の数は4種におよ  
びます。



旭編物(株)  
代表取締役 **熊坂聡さん**

「原糸は糸撚の回数やノット（結び目）  
などが適切な状態でないとい編み立てられ  
ないんです。編み立てられる状態にする  
までに半年から1年くらいかかることも  
あります」と、熊坂社長はよりよい生地作  
りのために妥協をしない姿勢を示します。  
トライアンドエラーを繰り返しながら  
ら、原糸メーカーと連携を取りつつ、理  
想の原糸に近づけます。同社の熟練の技

が生かされることです。

## ■生地メーカーの可能性

従来の用途に加え「ゼイロン」という  
耐熱性、難燃性が高く、アルミ粒子を接  
着した特殊繊維を使つての編立に成功  
し、防災服の裏地として用途も広がりに  
した。

一方で、経編みという大量生産型の業  
態と時代のニーズとのマッチングや、昨  
今の原材料の高騰の影響など、難しい局  
面も目の前に立ちほだかります。

「今後も続けていける企業を目指すた  
めにも、従来のアパレル分野に加えて、  
医療や福祉など新たな用途も開拓してい  
きたいですね（熊坂社長）」と、意欲を燃  
やします。同社が誇る「伸縮する素材」  
の可能性は、まだまだ広がります。